

信州から虹色の日本を創る

藤森
弘

(1)今の政治に対する考え―「納税者の苦悩」に向き合う生活者リアリティへ

無色透明の太陽光をプリズムに通すと、鮮やかな「虹色」に分光します。無色透明な光を豊かな色彩へと解き放つ「プリズム」こそ、私が目指す政治の理想像です。

社会の中に眠る個々人の多様な価値観や情熱を、鮮やかな「虹」へと分光し、調和ある連帯へと導く仕組み。それこそが、政治が果たすべき本来の使命であると思います。

しかし、現在の政治は分厚い灰色の雲に覆われ、庶民の希望や彩りを奪っています。私は、差異を尊重し共鳴を生む「虹の政治」を信州の空に架けるべく、地域政治団体「虹の会」を設立し、主宰しています。

現在の日本政治を覆っているのは、右と左あるいは既成の枠組みによる不毛なイデオロギー対立の喧騒です。政治的議論の多くが、額に汗して働く現役世代、とりわけ「納税者の苦悩」を置き去りにした「党利党略」の押

し付けに過ぎません。

私は、政治とは本来、国民を笑顔で元気にするためにあるべきだと考えています。拙著「楽の政治へ」などを通して、「生活が楽になり、住んで楽しいまちづくり」を提唱してきました。

党利党略の高尚なイデオロギー論を戦わせる前に、まず「納税者の悲鳴」を直視すべきです。毎月の給与明細を見るたび、膨れ上がる社会保険料の天引き額に溜息をつき、手取りの少なさに将来への希望を奪われているのが実態です。

現役世代の納税者のポケットにお金を戻し、消費を活性化させ、家族だんらんを楽しむ時間の豊かさこそが、真の意味で「国民を笑顔で元気にする道」ではないでしょうか。

(2) 志す政治家像と覚悟 — 「庶民」が主役の共生政治を共創する

私が志す政治家像は、庶民の小さな声を丁

寧に拾い上げ、それを政治のど真ん中に据える「地域主権の共生政治」の体現者です。リンカーンの言葉を借りるならば、「庶民の、庶民による、庶民のための政治」を、この信州から創り上げることにあります。

この理念を具現化するため、私は地域共創の三本の矢を掲げています。

・第一の矢…人と地球にやさしく災害にも強

い環境共生都市

・第二の矢…地域の新しい活力を生み出すたくましい産業基盤を備える**新産業創造都市**

・第三の矢…すべての世代が健やかに安心して暮らせる**健康長寿都市**

これらを達成するための最強の武器がAI（人工知能）です。AIは一部の学歴偏重エリートの特権を解体し、すべての人に知の力を与える「魔法の杖」となり得ます。私は「テクノ・デモクラシー」を推進し、難解な

行政システムを市民に開放したいと考えています。岡谷市民憲章に示された「緑と湖に

つつまれた美しい郷土」を守り継承しながら、最先端技術で行政をデジタル改革し、庶民の小さな声を政策へと翻訳していく不断の努力を惜しみません。

(3) なぜ国民民主党を選ぶのか

私が国民民主党への入党を志した最大の理由は、党の名称の通り「民主政治の主人公は国民である」という、あまりにも当たり前で、かつ現代において最も軽視されている真理を党是としているからです。

多くの政党が特定の支持団体やイデオロギーに縛られ、声の大きな人々の顔色を窺う中で、国民民主党は「対決より解決」を掲げ、生活者の手取りを増やすという実利に正面から向き合っています。この姿勢は私自身の政治行動哲学と完全に一致します。

民主政治の主人公である「国民」とは、決して抽象的な概念ではありません。それは、毎朝早く起きて働き、税を納め、地域を守つ

ている「庶民」一人ひとりのことです。国民民主党は、これら「静かなる多数派」の思いを形にし、偏らない庶民派政治を貫いています。私は、自律した個人が共に進化する「共生進化」の担い手として、国民民主党というプラットフォームこそが、AI時代における新しい自由を創造し、国民が真に主役となる社会を実現できる唯一の選択肢であると確信しています。

結び…信州から希望の虹を架ける

政治の目的は、論理のためではなく、愛すべき人間のためにあります。大学で培った独立自尊の精神と、言葉の力、そしてテクノロジーを携え、私は信州から虹色の未来を切り拓きたいと念じています。

「民主政治の主人公は国民である」という誓いを胸に、私は、誰もが「この国に住んでいてよかった」と元気よく笑い合える社会を共創してまいります。